



# みんなで描く ふるさと粟野の未来図

～岩野田北まちづくりビジョン～

2021～2030 年度



百々ヶ峰からの岩野田北地区方面の眺望

令和3年3月1日

岩野田北まちづくり協議会

# 目 次

(はじめに) 私たちのまちを育み、明日に繋ぐために	1
<b>第1章 地区の現況と課題</b>	
1 岩野北地区の現況と主な課題	2
(1) 概況	
(2) アンケートで寄せられた主な課題	
2 課題解決に向けて	5
(1) まちづくりの芽の発見・取り組み	
(2) 地域のまちづくりビジョン策定	
(3) まちづくり協議会の歩みと役割	
<b>第2章 岩野田北まちづくりビジョン</b>	
1 題名(タイトル)	8
2 計画年次	
3 まちの将来像	
4 まちづくりで大切に考える考え方(基本方針)	
(1) 住民と市でビジョンを共有・協働を实践	
(2) 効果的・持続的なまちづくり	
(3) 自治会・各種団体等の連携	
(4) 「この指とまれ」で広がる輪	
5 目指すまちの姿(達成目標)	10
(1) 安心・安全・絆のまち	
(2) 健康・快適な暮らしのまち	
(3) 人と地域を育むまち	
6 子どもたちの夢を育む	12
(1) 中学生の提案「都会的魅力!」	
(2) 小学生の提案「にぎやか・きれい・住み良い・公園!」	
7 次世代のための都市環境づくり	13
(1) 通過交通対策	
(2) 烏羽川の環境整備	
(3) 快適な生活空間づくりに向けた住民参加～地域でできることは地域で～	

8	その他検討課題	15
	(1) アンケートで寄せられたその他の課題	
	(2) コミュニティの基盤	
	(3) 住民ニーズのまちづくりへの反映	
(3)	<b>第3章 地区の特徴</b>	
1	アンケート結果	16
	(1) 結果概要	
	(2) 過去のアンケート結果概要	
	(3) 小・中学生のアンケート結果概要	
2	「まちづくりの芽ファイル」を作ろう	24
3	地区の統計データ	29
	<b>●資料編</b>	
1	地域のまちづくりビジョン策定経緯	30
2	市内の自治会・各種団体の沿革	31
3	市内各地区のまちづくり協議会	33
4	岐阜市住民自治基本条例	35
5	まちづくりに関するアンケート調査票	39
6	岩野田北地区まちづくりアンケート集計結果	48
7	第1次素案に対するパブリックコメントの結果	52

## 自治と協働のまちを目指して

### 私たちのまちを育み、明日に繋ぐために

新型コロナウイルスにより、経済活動、日常活動のみならず、地域のまちづくりは、多大なる影響を受けています。岩野田北地区でも、防災訓練、敬老会、スポーツ広場をはじめ、活動・行事の多くが中止となりました。子どもたちがあれほど楽しみにしていた夏まつりも、中止せざるを得ませんでした。

しかし一方で、青パト安全活動、登下校時の安全活動をはじめ、子供たちや高齢者の方々の見守り活動、豪雨時の防災出動、小学校の消毒奉仕などなど、自治会、各種団体、ボランティアの皆様のご取り組みが、日々継続的に実施されています。改めて、多くの皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。長きにわたり実践されてきた尊い活動を担ってこられた皆様方の熱い思いを、決して絶やしてはなりません。

このような時こそ、地域の絆をより強固にし、新しい日常を基本にしつつ、これまでに培われた知恵と経験を、今後のまちづくりに生かしていかなくてはなりません。

まちづくりは絶え間なく、よどみなく、明日に繋がる流れでありたいと願ってやみません。

地域のまちづくりビジョンは、10年後の岩野田北地区のあり方を見据え、まちづくりの具体的な方向性をとりまとめたものです。策定に当たっては、アンケート調査、計画の素案に対する住民の皆様からの意見募集など、地域一丸となって取り組んでまいりました。

岩野田北まちづくり協議会は、三世代交流の夏まつり、青パト安全活動、コミバス運行などを推進してきました。地域の助け合いと市との協働を基本に、まちづくりビジョンを共有し、住民の皆様のご参画のもと、自治会、各種団体等が連携を図りながら、自治と協働の輪を広げ、栗野のまちづくりをより一層進めてまいりたいと存じます。

より良い地域を築くため、厳しい時期ではありますが、しっかりと根を張り、力を蓄え、花開き、実を結ぶため、引き続き岩野田北のまちづくりに対しまして、皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年3月1日

岩野田北まちづくり協議会 会長  
(岩野田北自治会連合会長)  
松久忠弘

# 第1章 地区の現況と課題

## 1 岩野田北地区の現況と主な課題

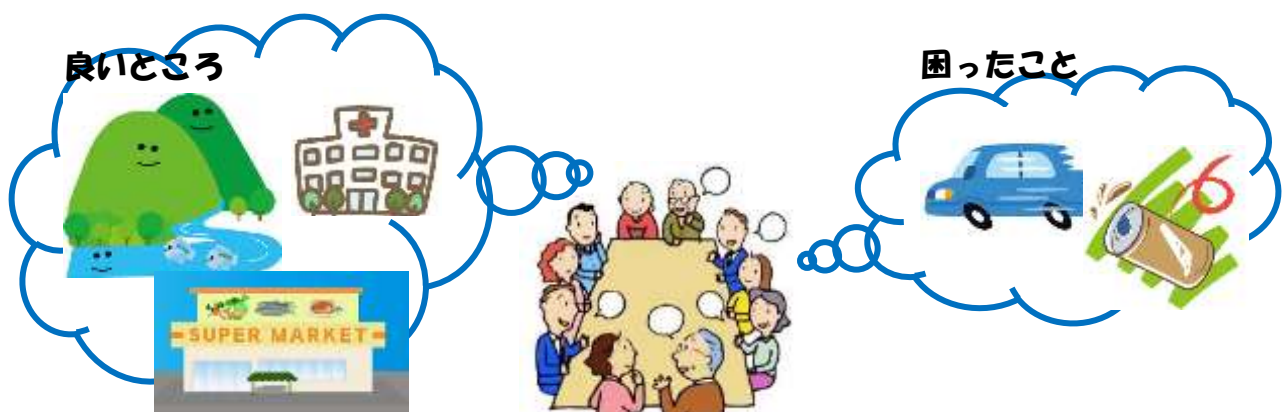
### (1) 概況～医療機関や店舗に恵まれた地区～

全体として典型的な郊外型の特徴を有している岩野田北地区は、自然豊かな鳥羽川を挟む栗野地区の東西で、交通環境や土地利用状況等に違いが見られます。地区内の道路幅員は総じて狭小であり、歩道やガードレールなどの交通安全施設も十分とは言えません。その上、通過交通量は多く、バイパス整備後も、市街地と山県市の通過点として生活道路の侵入交通が生活環境の悪化と安全を損なっています。また、公園も多くなく、子どもが戸外で遊ぶ環境には恵まれていません。バスの便数は確保されているものの、運賃は下岩崎から一気に跳ね上がります。

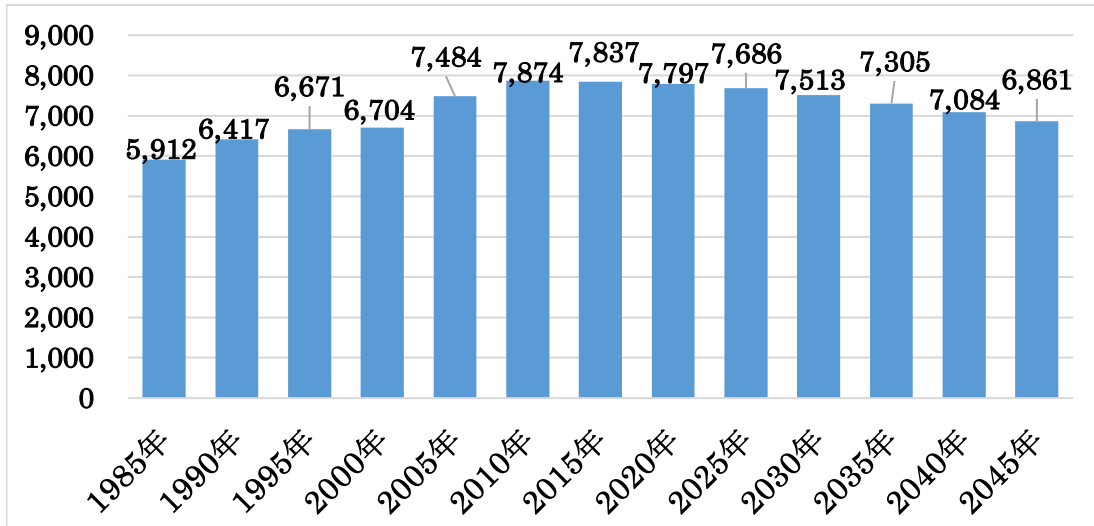
一方、郊外型の店舗が数多く立地し、医療機関にも恵まれ、生活利便な環境にあります。防災面でも、51年水害を機に鳥羽川改修工事が行われ、水害被害の心配は軽減されました。反面、親水空間としての河川の活用度は低く、また工事から数十年を経過した今も、かつて市内随一の蛍の名所は未だ復活していません。なお、山際の一部住宅地域は土砂災害警戒区域に指定されています。

自治会や各種団体、ボランティア活動、公民館活動は活発に行われています。一方、互いの情報共有・連携強化及びまちづくりに住民が参画しやすい環境づくりが求められています。

自然や田園風景に季節感を感じられる反面、田畑の宅地化が進み、集合住宅が急増し、かつ高齢化の進展(令和2年4月1日現在の高齢化率25%)を背景に、自治会加入率の低下が見られます。大龍寺や馬頭観音などの野仏をはじめとする史跡等が地区内に息づいていますが、転入者には、郷土の文化はあまり知られていません。生活の利便性に優れた地区の居住性をさらに高めるため、みんなでビジョンを実現しましょう。

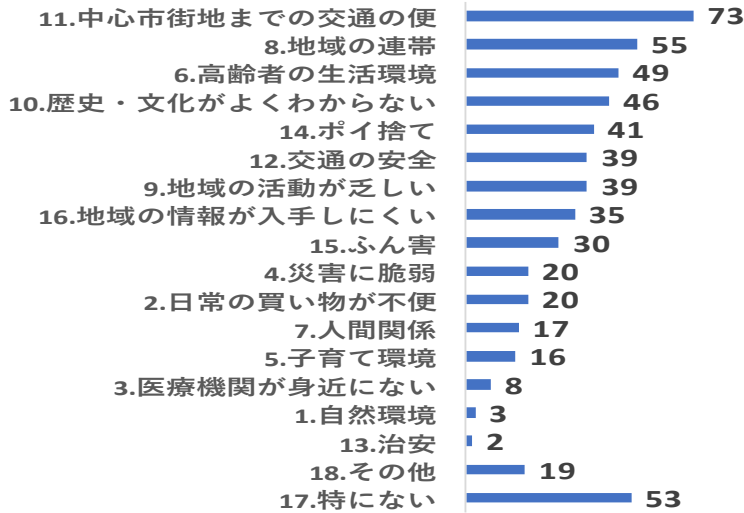


【グラフ1】岩野田北地区の人口推移グラフ

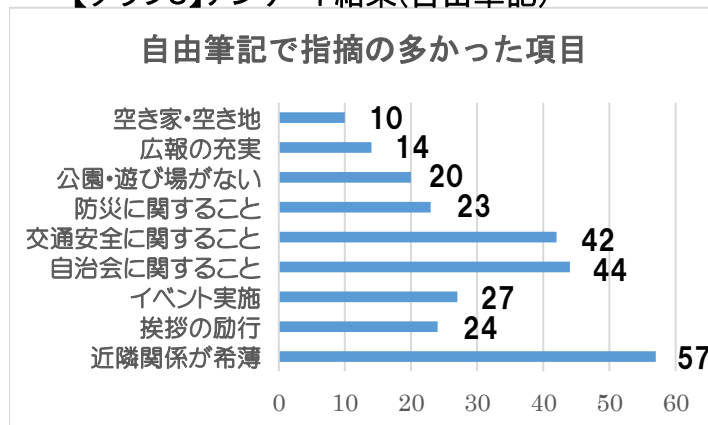


● 皆さんから寄せられた地域の課題 (15 ページ参照)

【グラフ2】アンケート結果(選択肢)



【グラフ3】アンケート結果(自由筆記)



## (2) アンケートで寄せられた主な課題

「地域の課題」を尋ねた設問(選択肢から選ぶ)の結果をグラフ2に、また「自由筆記」で指摘された課題をグラフ3に示しました。

いずれも、「地域の連帯」、「近隣関係の希薄化」、「自治会関連」が課題の上位を占め、「交通安全」も共通して提起されています。栗野の東西では、「交通の便」、「ふん害」が栗野西で、「地域の連帯」、「情報入手難」は、栗野東で多く回答が寄せられました。

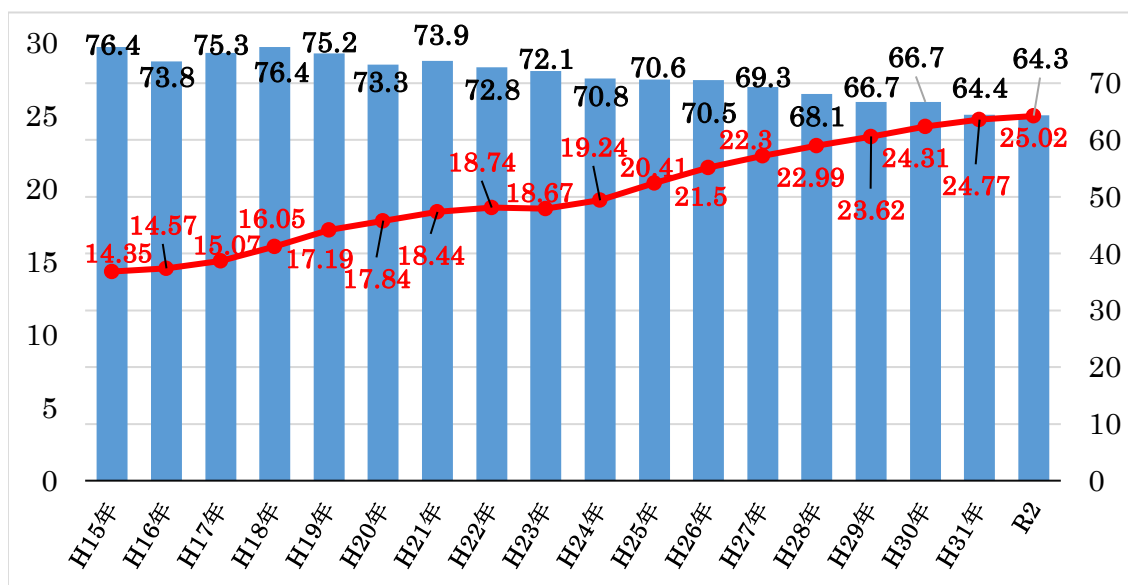
これら課題に対して、自由筆記では、「高齢者の社会的孤立の抑制」、「高齢者の悩みへの対応」、「空き家問題」、「交流イベントの企画」、「地域活動への参加促進」、「コミバスの利用促進」、「バス運賃の市内均一料金」などの意見が寄せられています。

このうち、まちづくりの基盤となる自治会の加入率減少、近隣関係の希薄化は、南海トラフ地震などの災害時の対応においても重要な課題を提起しています。

自治会活動に関して、「高齢化に伴う負担」、「集合住宅の未加入」、「自治会活動の見える化」、「小さな自治会実現」、「役員任期の見直し」、「役員の割り当て方法」などの意見が寄せられています。

【グラフ4】自治会加入率と高齢化率

自治会加入率：棒グラフ  
高齢化率：折れ線グラフ



## 2 課題解決に向けて

### (1) まちづくりの芽の発見・取り組み

課題の解決に当たっては、一つひとつのテーマ（「まちづくりの芽」）に対して具体的なファイル写真・動画を活用するなどして作成し、地区の特性と創意工夫のもと、まさに地域ぐるみでの取り組み（地域住民の協働）が求められます。地域でできることは地域で機動的かつ柔軟に取り組む一方、地域だけでは解決ができない課題に対しては、市との協働が必要です。

また、岩野田北地区ならではの歴史・文化等資源を再発見し、まちづくりに生かす取り組みも地域活性化につながると考えられます。

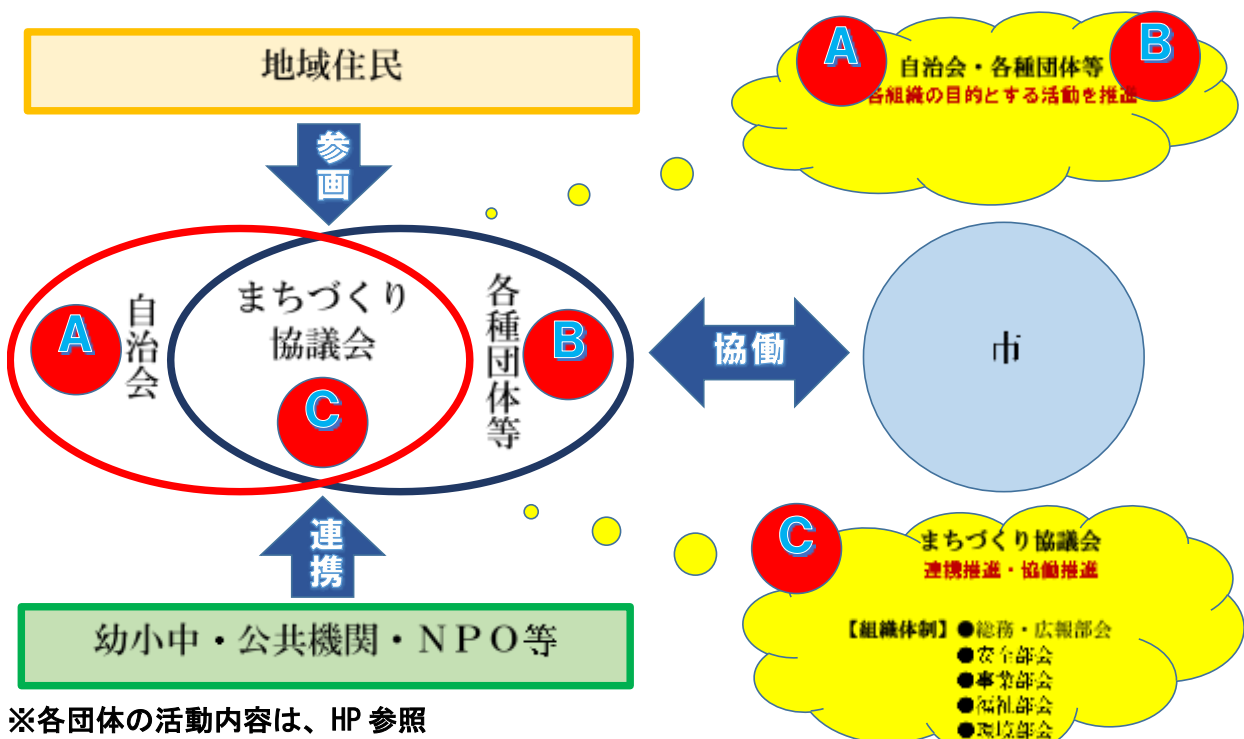
### (2) 地域のまちづくりビジョン策定

「みんなで描くふるさと栗野の未来図」(地域のまちづくりビジョン)は、今回及び過去2回実施したアンケート結果をできる限り反映させ、10年後の岩野田北地区のまちづくりを見据え、まちづくりの基本方針と目標を掲げ、まちづくりの方向性と取り組みについてまとめたものです。

ビジョンに沿って、中・長期的かつ持続的なまちづくりを推進するとともに、引き続き、まちづくりの芽(課題と資源)の発見に努めることが大切です。

誰もが取り組むことのできるまちづくりの手法(「この指とまれ」方式)や、気軽にまちづくりについて話し合う場「まちづくりサロン」を通じて、「まちづくりの芽ファイル」を蓄積・継承するなど、皆さんの意見をお寄せいただきながら、まちづくりへの「参画・協働の輪と和」を広げていくことが、ビジョンの実現につながります。

【図1 協働による地域のまちづくりビジョンの推進イメージ】



※各団体の活動内容は、HP 参照

<https://iwanodak-machi.sakura.ne.jp/wp/>



### (3) まちづくり協議会の歩みと役割

岩野田北まちづくり協議会は、住民参画及び自治会、各種団体が連携してより良いまちを築くことを目的に、平成16年10月2日に地域力創生モデル3地区の一つとして誕生しました(令和元年6月末現在、市内43地区に設立)。同年12月に「まちづくりを考えるアンケート調査」(2,212世帯を対象・回収率60.3%)を実施。その結果、課題としては、「地震防災」(59.3%)、「老後の生活」(37.0%)、「空き巣・窃盗」(36.1%)が多く寄せられました。それらを踏まえて、まちづくり協議会に対する期待は、「安全確保の取り組み」(40.1%)、「地域の問題点の把握と解決する活動」(31.7%)が多く寄せられました。以降、さまざまな取り組みが進められ今日に至っています。

平成29年には、総務部会、事業部会、青パト部会、広報部会の4部会を新たに設置し、夏祭りや安全巡回をはじめとする各種活動を分担して推進する体制を築きました。また、自治会や各種団体等の情報を互いに密にし、年間計画への反映に努めています。

一方、同年、まちづくり協議会の委員及び各種団体の構成員を対象にアンケートを実施(回収数216件)。その結果、改めて特に重要な課題として、「高齢者支援・移動手段確保」がクローズアップされました。これを踏まえ、福祉部会を設置し、コミュニティバスの導入を担うこととし、岩野田地区と協議の上、コミュニティバス等運営協議会準備会を設立(平成30年7月9日)。その後、平成31年4月15日には運営協議会へと移行し、9月2日に試行運転するに至りました。

まちづくり協議会は、住民の皆さん及び自治会、各種団体、ボランティア団体等の参画により、地域が連携し、主体的にまちづくりの課題等を話し合い、方向性を共有し、役割を分担しながら活動を推進する機能と言えるでしょう。一方、運営に当たっては、住民相互の協働とともに、当然のことながら市との協働関係が欠かせません。現在、市からはまちづくり協議会に対して、運営費の2/3、30万円を上限に助成されています(なお、令和元年度から、地域まちづくりビジョンを取りまとめ、活動する地区に対しては、翌年度から運営費の4/5・上限50万円が助成される「地域まちづくりビジョン策定支援制度」がスタートしました)。

岩野田北まちづくり協議会では、令和2年度、協議会内に会長を委員長とする策定員会を設置し、地域のまちづくりビジョンをここに策定しました。今後、ビジョンの実現に向けて、計画的・継続的・効率的・効果的なまちづくりの取り組みを、地域が連携・協働で進められるような機能を担っていくことが求められます。

## 岩野田北まちづくり協議会の構成団体等（令和3年3月1日現在）

- **構成団体等** 岩野田北自治会連合会、岩野田北自主防災隊、社会福祉協議会岩野田北支部、岩野田北小学校、岩野田中学校、岩野田北公民館、北消防団岩野田分団、岩野田水防団、岩野田北地区民生委員・児童委員協議会、岐阜北地区交通安全協会岩野田北支部、岩野田北老人クラブ連合会、岩野田北青少年育成市民会議、岩野田北小学校PTA、岩野田中学校PTA、岩野田北子ども会育成会、赤十字奉仕団・岩野田北分団、岩野田北母子福祉会、岩野田北女性防火クラブ、岩野田北体育振興会、岩野田北スポーツ少年団、粟野共有林野保護組合、岩野田北公民館クラブ・サークル、ひまわりの会、住民有志総務部会、広報部会、青パト部会、事業部会、福祉部会（令和3年度に組織改編予定）
- **組織体制**



▶臨時総会（令和元年8月31日）

## 岩野田北まちづくり協議会の主な活動

引き続き、以下の取り組みを推進する一方、皆さんの意見をもとにより良い企画に努めます。

- 自治会・各種団体等の情報交換と連携
- 広報紙・ホームページの作成 ●青パト安全活動 ●夏まつりの開催
- ウォーキングイベントの開催 ●コミバス運営への参画
- まちづくりサロンの開設 ●その他共催事業(コミュニティ・コンサート、スポーツ広場など)



▲部会の打ち合わせ



▲三世代交流の夏まつり



▲青パト安全活動



▲ぐるっとバス出発式



▲健康づくりと地域探訪のウォーキングイベント



▲ホームページを開設